



本屋のある町

落ち葉の葉しおり

画と文・國田祐作

下町のその本屋は、むかしは古本専門であった。冬でも戸は明けっぱなしで、木枯らしが勝手に吹きこんだ。暗い店内の奥のコタツでオヤジさんが店番をしていた。まあ、古本屋の見本のような風景である。

それが息子に跡を継がせることになった。それについては、ひと悶着があったらしい。息子にしてみれば、今更カビ臭い古本を相手に、という気持があったろう。そこで経営を一新するという条件で折合いをつけた。

まず新刊中心とする。戸は明けっぱなしにせず自動ドアにする。奥の帳場はやめて入口にレジを設ける。すなわち近代経営の断行である。オヤジさんについては古書部門を委せるが、ただし店舗は別にする、ということになった。

近代化はギセイを伴う。オヤジさんは店の横の狭い植込みに店を出した。露天の商いである。空き箱に戸板を乗せ、ダンボール箱入りの本を並べた。雨の日は防水布をかぶせて休みになる。

それでもオヤジさんはどこからか古本を仕込

む。学校図書館の払い下げや、参考書、文庫本にまじって表紙のとれた図鑑など、失礼だがゴミ寸前といった本まである。大正6年発行『秘術・奥の手』などというの紛れこんでいる。「銭出さずして、愉快を買ふ術」というページを見る。どうするか。「悠々無銭神の符を持ち、親友と手を携えて山野を跋渉するなり」とある。この術は用いて悪いものではない。私はしばしば用いた。

本の間からハラリと落ちるものがある。このあたりは昔からケヤキ並木が続く。その枯葉が風に吹かれて露天の古本にふりかかるのである。読みさしの、それがしおり葉になっている。

すっかりケヤキが裸になると、オヤジさんは本を囲い、若葉に風が渡るころまでわが古書部は閉店休業となる。

国木田独歩風に言うなら、日当りの良いお寺の山門近くに自転車をとめて、アポロ帽を被って昼寝をしている老人を見たら思いたまえ、それが彼の古本屋のオヤジであると。

(くにた・ゆうさく 教養部教授・芸術論)

書棚にもっと本を!



— 図書館に来た100人にきく —

新館オープンから7カ月を経た11月下旬に行った「100人アンケート」は我々にさまざまな警鐘をならしている。

「もっと本を!」「もっと音楽を!」そして「もっと静けさを!」と訴える。それは我々に「図書館のペレストロイカ(改革)」を迫っているかのようだ。以下はその結果の要約。

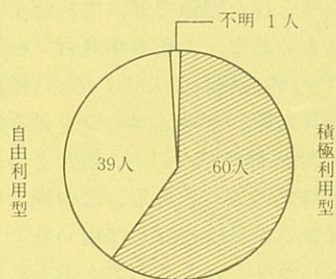
若き利用者の像

積極利用型と自由利用型と

図書館を訪れた100人の利用者を我々は2つのグループに大きく分けて分析した。

一つは「積極利用型」(本の貸出を行うグループ)と他は「自由利用型」(貸出は受けないが多面的に図書館を利用するグループ)である。

前者は60人、後者は39人、不明が1人であった。



これら学年別にみると表のようになる。

学年 \ 型	積極型	自由型	不明	計
他	6人	2人		8人
4	12	4		16
3	12	1		13
2	16	6	1	23
1	14	26		40
計	60	39	1	100

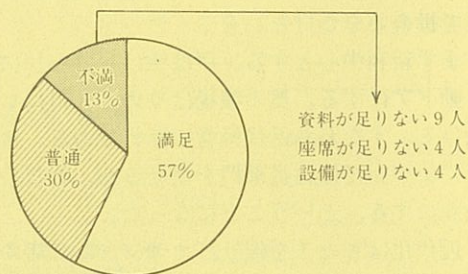
学年が進むにつれて次第に「積極型」が増える傾向にあるのは当然であろうか。

さらに我々はこれらの100人の利用者が各階をどのように利用しているかを利用別と学年別によってみた。

利用別	学年別										
	他	積極	自由	(階)	計						
計	8	1	2	5	不明	4	2	0	1	1	8
3階	26	15	11			13	5	4	2	2	26
2階	53	1	38	14		15	14	8	11	5	53
1階	14	5	9			9	2	1	2	0	14
計	100	1	60	39		40	23	13	16	8	100

全体として、2階の「総合フロアー」に半数以上の53人、ついで「一般教養コーナー」の3階には26人、「新聞コーナー」の1階には14人となった。

「利用別」では1階を「自由型」が2階以上は「積極型」が利用している。学年別では、学年が進むにつれて「総合フロアー」の2階を占める比重が高くなる「凸型」をなしている。



資料が足りない9人
座席が足りない4人
設備が足りない4人

図書館への「満足度」という評価では全体として87%がほぼ「満足」としたが、13%は「不満」

と答えた。

これらをさらに利用別でみると「積極型」に「不満」の割合は増してくる。

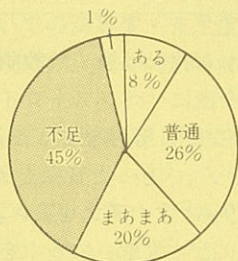


その内容は「資料不足」が9人、設備、座席の不足がそれぞれ4人であった。

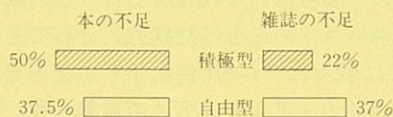
もっと本を！

そしてもっと雑誌も！

こうした傾向はさらに具体的な「資料内容」への評価で一層強まる。全体として87%が図書館を「評価」したのに「資料」への評価は54%に下る。逆に「不満」は13%から46%にはね上るのだ。



これを利用別でみると「積極型」は一層「不足」を訴える。それは56%、逆に雑誌では「自由型」が37%の「不足」を訴えている。自由型は「雑誌、新聞志向」でもある。



ではどのような内容の「本」が不足しているのか。全体として「教養関係」の不足が目立ち、「新刊本を」という声も強い。それはむしろ「専門の新刊書」を意味するかもしれない。

〈不足している分野（1人2点）〉

A 一般教養	B 専門分野
趣味・娯楽—17	法律—13
文庫・新書—15	経済—8
一般教養—10	計—21
文学—5	C その他
語学—2	新刊—10
計—49	辞典・洋書—5
	計—15

これを学年別の傾向でみると、特に2年生に「不足」という評価が多く出ている。これは「教養関係の不足」と対応するようだ。

資料 学年	ほぼある	不足	計
4	9人	7人	16人
3	8	5	13
2	10	12	他 ₁ 23
1	23	17	40
他	4	4	8
計	54	45	他 ₁ 100

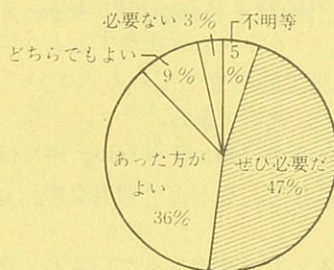
回答者たちはいう。「本を増やせ」「音楽・芸術の本が少ない」「趣味、娯楽の本をもっと」「とにかく在庫がない」「1階にも雑誌コーナーを」と。

もっと音楽を！

そして映像も！

不足しているのは「本」ばかりではない。「視聴覚資料」と「設備」がない。回答者たちは口ぐちにその必要性を訴える。

全体として「視聴覚設備」の必要を訴える回答者は83%にのぼる。



利用別でみると「積極型」が50%、「自由型」が41%でどちらかといえば「積極型」が求めている。



資料の内容では、①趣味・娯楽—90件、②音楽（ポピュラー・クラシック）—83件、③映画—68件などとなっている。

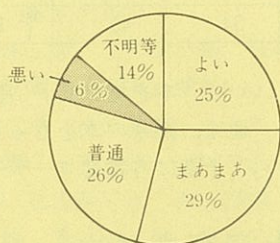
総体として、利用者たちは「もっと本を！」と共に「もっと音楽を！」と訴えている。

もっと静けさを!

そして笑顔も!

回答者たちは館員の対応をどうみているのだろうか。彼らは「もっと本を!」「もっと音楽を!」に加えて「もっと静けさを!」と訴えている。

館員の対応が「ほぼよい」と答えた利用者は80%であったが、6%は「悪い」とした。



「悪い」と指摘した内容では

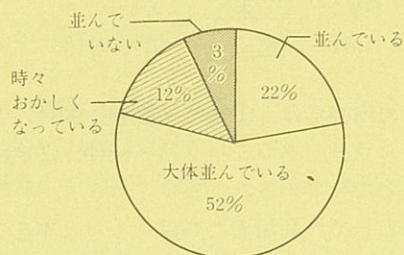
- カウンター内や電話の話し声が高い。
- 笑顔が足りない。
- 図書的位置をたずねても指さすだけでよくわからない。

「静けさ」への要求は単に館員に対してばかりでなく同じ「利用者」に対しても向けられる。

- 客の応待よりも、利用者のことを考え、うるさい人は注意するように。
- 3階で物を食べている人がいてうるさい。迷惑である。

等々の反応はその一端にすぎない。中には「若い娘を入れて欲しい」などと切実な声もきかれる。

次に「本がきちんと整理されているか」については、74%が「ほぼ並んでいる」と答えたが、15%は「並んでいない」もしくは「時々乱れている」と答えた。



窓口の応対と共に、開架コーナーの本の整理は館員がなによりもまず心くばりしなければならないサービスの原則だ。15%の人がそこに「不快感」を表明していることは大いに自戒しなければならないだろう。

他方で、利用者たちは言う。

- 楽しそうにやってほしい。
- 頑張してほしい。
- 御苦労様です。
- 今のままでよい。

という声もきかれる。それは我々への励ましであろう。

内にはペレストロイカ(改革)を!

そしてロマンを!

以上の結果から我々は多くの教訓を得る。問題はこの結果を今流に「ペレストロイカ(ロシア語の改革)」につなげる努力をすることだろう。

「もっと本を!」「もっと音楽を!」に応えるためにはなによりも「ライブラリアン」としての我々の「心の成熟」と「改革」に多くを負うだろう。

我々はすでに前号の「新図書館生活の6カ月とライブラリズムの創造」の中でその大まかな方向を示した。

図書館の「頭脳」ともいべき「レファレンス・セクション(参考係)」の創設。「音・色・数・語系空間」のバランスをもった創造。そしてその座標の原点に我々は「ユリイカ(ギリシャ語でI have found it!—アルキメデスの言葉—我、発見せり!)」をすえた。

これらはいわば「ライブラリアンの情熱」以外の何ものでもない。学生諸君の切実な要求に応えるにはさらにもう一つの「情熱」が必要だ。我々は今度の科学的な調査を通してその要求の内容をより具体的に把握したが、それを要約し一言で表現すれば「ライブラリアンよ、もっとロマンを持て!」ということになるのではないか。これこそは利用者その人々が求めているものでもあろう。最後にご協力戴いた100人の方々にお礼を申し上げたい。

図書館利用者アンケート質問項目要約

I. 施設の満足度・充足度

1. 新図書館には満足していますか
2. 1で不満と答えた方が不満ですか
3. 旧図書館と比較してみているかがですか
4. 1階から3階までの閲覧室の中で、あなたが最もよく利用するのはどこですか
5. 1階の新聞コーナーは利用してみているかがですか
6. 2階のコピーコーナーは利用してみているかがですか
7. あなたは喫煙しますか
8. 図書紛失防止装置について知っていますか
9. グループ閲覧室を利用したことがありますか

II. 資料についての満足度・充足度

1. あなたが求めている図書・雑誌は十分にありますか
2. 2階を経済・法律関係, 3階を一般教養と区別していることについて
3. 開架の本の冊数は多いですか少ないですか
4. 開架書庫のスペースについて
5. 2階のブラウジング・コーナーについて
6. 現在, 図書館には視聴覚機材・資料がないことをどう思いますか
7. もし(視聴覚機材・資料を)備えるとしたら次のうちどれがよいでしょうか
8. 図書館には視聴覚機材のための専用の部屋は必要だと思いますか

III. サービス面での満足度・充足度

1. あなたは今まで月何回程度図書館に来ましたか
2. あなたは今まで何回程度本を借りましたか
3. 貸出冊数は現在2冊までですが, この冊数について
4. 貸出期間は現在10日間ですが, この期間について
5. 貸出手続について
6. 返本手続について
7. 開館時間以外でも返却できる返本ボックスについて

8. 開館時間と閉館時間について知っていますか
9. カード目録の使い方を知っていますか
10. レファレンス・サービスについて知っていますか
11. レファレンス・サービスを受けたことがありますか
12. レファレンス・サービスを受けて探していた図書はありましたか
13. 図書館員の対応はいかがですか
14. 図書の購入希望を出したことがありますか
15. 開架書庫の本はいつもきちんと並んでいますか
16. 『図書館だより』は読んでいますか
17. 『図書館だより』に要望はありますか
18. 図書館員に希望することがありましたら書いてください

実施時期：11月30日—12月1日の2日間
 対象：100人（1日50人ずつ）
 方法：1時間ごとに5人。初日は1階ロビー, 2日目はカウンターゲートで実施
 サンプル構成下記の通り

100人の学年・学部別構成（ ）内は2部の学生

単位：人

学部	経済		法律		工学		?		計	
	うち	女性	うち	女性	うち	女性	うち	女性	うち	女性
4	8(1)		8(2)	(2)	-		-		16(3)	(2)
3	5		8(1)	1					13(1)	1
2	15		8(1)	(1)	-		-		23(1)	(1)
1	14(3)	2(1)	18(4)	3	8		-		40(7)	5(1)
卒業	-		2	1	-		-		2	1
聴講	2		2		-		-		4	
?	1		-		-		1		2	
計	45	2	46	8	8		1		100	10

電子計算機今昔

牧野圭二

電子計算機の歴史もおよそ半世紀となり、近年その発展も一段と加速度がついてきたように感じられます。私が電子計算機について学び始めたのは、国立大学に大型計算機センターが設置された頃でした。当時はまだ実際の電子計算機を見る機会さえなかなかありませんでしたが、幸い新製品の超小型計算機の展示会を見る機会にめぐまれ、「ステレオアンプ並の小型キャビネット」におさまった姿に驚いて帰って来た記憶があります。今でも大事にとってあるその時のパンフレットには、「大型コンピュータを完成させた技術の総力をあけて低価格・高性能のミニコンピュータを開発完成しました」と書かれています。

その頃のミニコンピュータと呼ばれた典型的な小型の計算機がどのようなものか、そのパンフレットからいくつか性能を拾ってみますと、語長16ビット、主語憶1k語～32k語、基本命令数28種、加減算 $6\mu\text{s}$ とあります。この加減算は16ビット固定小数点の加減算のことで、このような小型の計算機ミニコンピュータでは、浮動小数点の四則演算はもちろん固定小数点の乗除算さえもソフトウェアでさせる時代でした。しかし、この計算機でもフォートランは動いていたのです。

今、あらためて当時を思い出し現在と比較してみますと、あの大きな部屋一杯を占めていた大型計算機が、現在ではパーソナル・コンピュータとなって机の上に乗るようになっていました。また、電卓も発売されたばかりで、電子式卓上計算器という名前の通り現在のパーソナル・コンピュータほども大きさがあり貴重品扱いだったものですが、それも名刺の大きさになり日常用具になってしまいました。そう言えば、計算尺もそろばんも、もうほとんど見かけなくなりました。

現在のように、情報化社会、計算機社会と言われるまでに生活の中に計算機が浸透してくるには多くの技術的進歩がありました。例えば、トランジスタを組み合わせて作っていた計算機の心臓部がマイクロプロセッサ・チップとして1cm角程度の大きさを実現できるようになりました。また、

計算機を動かすためのプログラミング言語も、高度な機能を簡単に表現できる高級言語が色々開発され、目的、用途に応じて選択できるようになっています。このような電子工学、情報工学の技術が他の多くの工学技術に支えられ、集積されて現在の計算機の姿となっています。

このような背景のもとに、電子計算機は、現在も性能の向上と共に応用分野の拡大に向けてさらに発展を続けています。割り切った言い方をすれば、計算する機械としての使い方が主となる事務計算や工業製品の開発、製造の分野は、すでに実用化の段階に達しており一応成熟期に入ったと考えられます。しかし、AIと言われる人工知能やCAIと言われる教育、学習を始めとする非計算が中心となる分野は、まだ研究段階にあり、これからの当分試行錯誤が続くものと考えられます。このような分野で本当の意味での実用化に達するためには、工学の枠内でだけ考えるのではなく、より広い立場に立って人間を見つめる思考が必要と感じているところです。

「工学」と「人間」との間から、新しい思想、新しい論理に基づく新たな応用分野が出て来るかも知れませんが、その過程で新しい原理の計算機が（その時にはもう計算機と呼ばれないかも知れませんが）出現しないとも限りません。その出現を期待して結びとします。

（本稿に関連する本をいくつか御紹介します）

- 1) マイクロコンピュータの誕生 — わが青春の4004 嶋正利著 岩波書店
- 2) 技術者が語るプログラミング言語の世界 川村清著 秀和システムトレーディング株式会社
- 3) コンピュータと教育 佐伯胖著 岩波新書（黄版 332）岩波書店
- 4) 先端技術のゆくえ 坂本賢三著 岩波新書（黄版 362）岩波書店

（まきの・けいじ 工学部助教授）

自著を語る⑦

中世ヨーロッパ女性誌 —婚姻・家族・信仰をめぐる—

平凡社刊 (1986)

木津隆司

本書は、フランスの先住民であるケルトの墓碑彫刻と碑銘を通してみた井上泰男氏の「ガリアの女たち」と「巡礼の歴史と風俗」、バラ戦争時代のイギリス、パストン家の主婦マーガレットの書簡集を通して、三代にわたるジェントリー貴族の興隆を描いた常見信代氏の「マーガレット・パストン」、そして私の「婚姻をめぐる闘い」の、それぞれ独立した四部構成で、「中世ヨーロッパ女性誌」と題した。こうした性格上、以下私の担当したものについて紹介しよう。

日本語で「兄弟」と書くのに、ヨーロッパ系の言語、例えば英語では brother の一語ですましてしまう。そこに血縁意識の面で違いがあるのではないかという素朴な疑問が、研究の発端であった。

相続慣行や親等計算法などの研究から、ゲルマン人の血縁意識には、同じ始祖から同等の血を受けているいとこ・兄弟といった横の血縁共同体意識の根強い伝統のあることが分かった。この伝統は、ヨーロッパ中世社会に見られる裁判の際の血族による共同宣誓や連帯責任、血族間の復讐といった形で機能していた。

秩序維持の任に当たるべき公的権力が弱体な時代には、自己防衛のために血縁共同体は結集するが、こうした条件のもとでは、財産の共有による大家族が想定される。経済社会が発展して、強力な公的権力が形成されると、大家族は崩れ、財産の均分相続が主流をなすようになる。こうした時代の動きを反映して、キリスト教は、「婚姻の秘蹟」を媒介として血を異にする男女が血肉一体の夫婦となるという擬制を持ち込み、夫婦単位の家族の重視を提唱した。血肉一体の夫婦から生まれる子供も父母と血肉一体であるという考え方は、この親子の血肉一体の連鎖が切れない限り、おじ・いとこ・兄弟といった、横の血縁からの干渉を排除しながら、直系という、子供にしかるべき場を保証する、時代の要請にこたえた血縁関係を創出して、横の血縁意識にくさびを打ち込むこととなった。

ゲルマンの血縁共同体的伝統が族内婚を指向するのに対して、婚姻慣行を通して世俗の人々の魂を導こうとするキリスト教会は、離婚を禁止しながら、異常な

までに近親結婚を忌避した。人と人、親族と親族を結び付ける婚姻は、圧倒的な権力の存在しない中世においては、実力を実現する重要な手段であったが、ふさわしい結婚相手を見出すには、当時の貴族社会は狭すぎたから、近親の範囲を広くとれば、近親結婚をまぬがれることは難しかった。こうした社会環境のなかで、最初は「近親婚姻障害」違反で攻撃されていた貴族も、やがてこの「近親婚姻障害」を逆手にとって、「婚姻不解消性」の堅塁を撃ち破り、自己の野望を実現して行く。こうした「婚姻をめぐる闘い」のなかでキリスト教が、婚姻の秘蹟性からその不解消性を導きだし、男女相互の同意にもとづく協約の観念を生み出したこと、またゲルマン的な横の血縁意識と直系の縦の血縁意識の交点に、ローマ法からの影響を受けながら、自己という観念を見出したことなどは、その後の西欧における人間関係を展望する上で興味深い。

かつて、中世は暗闇の時代といわれた中世という時代が、ゲルマンの伝統、キリスト教、ローマの伝統など、さまざまな要素の対立と融和のなかから形成されてくるヨーロッパ文明の姿を感じとっていただければ幸いである。

(きづ・りゅうじ 教養部教授)



経済学演習 千種義人〔ほか〕編著 同文館
 支配の「経済学」 小倉利丸編 れんが書房新社
 経済学史 小林昇編 有斐閣
 資本論の基本性格 松石勝彦著 大月書店
 経済学批判の近代像 山田鋭夫著 有斐閣
 マルクス経済学を学ぶ 横山正彦編 有斐閣
 ミル・マルクス・河上肇 一経済思想史論集一 杉原四郎著 ミネルヴァ
 ケインズ研究 一一般理論の分析一 J. フェンダー著 小沢健市訳 慶應通信
 均衡理論の研究 福岡正夫著 創文社
 ケインズ全集2 J.M. ケインズ著 中山伊知郎〔ほか〕編 東洋経済新報社
 2. 平和の経済的帰結 (早坂忠訳)
 近代経済学古典選集5 日本経済評論社
 5. 経済学の方法 (C. メンガー著 吉田昇三訳)
 近代経済学の歴史 下 一ケインズ革命からマネタリスト反革命をへて現在まで一 A. マーチャーシュ著 関恒義監訳 大月書店
 ケインズ一一般理論一 宮崎義一著 日本評論社
 近代経済学の解明 1, 2 杉本栄一著 理論社
 入門価格理論 倉澤資成著 日本評論社
 日本経済これからこうなる 宮崎勇著 PHP 研究所
 日本経済講義 一データで語る経済のダイナミズム一 篠原三代平著 東洋経済新報社
 日本経済21世紀へのシナリオ 竹内宏編 有斐閣
 「中国市場」の本当の読み方 “二つの顔”をもつ革命国家の行方 稲垣清著 PHP 研究所
 概説イギリス経済史 一現代イギリス経済の形成米川伸一編 有斐閣
 ルーブル 一ソ連の国際経済戦略一 永田実著 教育社
 ラテンアメリカ危機の構図 一累積債務と民主化のゆくえ一 細野昭雄著 有斐閣
 借金国の経済学ーブラジル・もう1つの経済原理ー 東田直彦著 日本経済新聞社
 地域経済システムの研究 北原貞輔編 九州大学出版会

経済政策論を学ぶ 清水嘉治編 有斐閣
 国際化時代と日本 板谷茂著 新評論
 現代科学理論と経営経済学 小島三郎著 税務経理協会
 中小企業論 藤田敬三編 有斐閣
 予算管理ハンドブック 青木茂男監修 中央経済社
 現代資本主義の経済変動論 柴田義人著 新評論
 近代財政の理論 一その批判的解明一 武田隆夫〔ほか〕著 時潮社
 現代財政入門 米原淳七郎編 有斐閣
 イタリア財政学の発展と構造 日向寺純雄著 税務経理協会
 統計学一見方・考え方一協本和昌著 日本評論社
 アメリカ歴史統計 別巻 アメリカ合衆国商務省〔ほか〕編 原書房
 総合社会政策を求めて 一福祉社会への論理一 経済企画庁国民生活局国民生活政策課編 大蔵省印刷局
 現代工業経済論 川上幸一著 税務経理協会
 覇者の驕り 上, 下 一自動車・男たちの産業史ー D. ハルバースタム著 高橋伯夫訳 日本放送出版協会



食糧農業問題全集 農山漁村文化協会
 4. 地域農業の組織革新 (高橋正郎著)
 農業政策論 上原信博著 有斐閣

講座政治学 三嶺書房

4. 地域研究 (矢野暢編)

ヴェーバーと丸山政治学 滝村隆一著 勁草書房

文明の試練 J.M. カディヒイ著 塚本利明〔ほか〕訳 法政大学出版局

行政学入門 加藤一明〔ほか〕著 有斐閣

図解による法律用語辞典 自由国民社

北海学園大学法学部20周年記念論文集 北海学園

大学法学部編 北大図書刊行会

現代法学全集 筑摩書房

1. 法学入門 (団藤重光著)

5. 憲法 (佐藤幸治著)

8. 租税法 (畠山武道著)

10. 民法2—物権— (稲本洋之助著)

17. 商法2—会社法— (神崎克郎著)

28. 刑事訴訟法 (鈴木茂嗣著)

29. 刑事学 (吉岡一男著)

法律学全集 鈴木竹雄〔ほか〕編 有斐閣

1. 法哲学概論 (加藤新平著)

22—2. 不法行為 (加藤一郎著)

28. 会社法 (鈴木竹雄著)

40. 労働団体法 (外尾健一著)

42. 証券取引法 (神崎克郎著)

46. 労働組合法 (石川吉右衛門著)

47. 労働基準法 (有泉亨著)

日本近代立法資料叢書 8 法務大臣官房司法法制調査部監修 商事法務研究会

法の理論 7, 8 J. ヨンパルト 三島淑臣編 成文堂

憲法講義 2 —基本的人権— 大須賀明〔ほか〕著 有斐閣

シエースの憲法思想 浦田一郎著 勁草書房

アメリカ行政法の研究 藤谷正博著 御茶の水書房

民法読本 好美清光編 有斐閣

2. 債権法

民法概説 甲斐道太郎〔ほか〕編 有斐閣

1. 総則・物権

2. 債権

“それでもひとつ、

犬養道子「人間の大地」

中央公論社刊

お正月のご馳走も食べあきて、何かあっさりしたものが食べた、なんて考えている満腹のあなたに、ぜひ読んでいただきたい本です。

この本を読むまで、飢餓問題、難民問題、地球の砂漠化、どれをとっても絶望的なほどの難問題。

ちっぽけな、私個人にできる事は何もないように思っていました。でも、どんな小さな事でも、できる事はあるはず。そんな事からはじめよう。いや、はじめなくっちゃ!! 思わず、そう叫んでしまった私です。読みながら、あまりの悲惨に息をのみ、怒り、絶望し、そして、読みすすんでいくうちに希望もわいてきました。

久し振りに、素直なけがれなき涙を流してしまいました。本書の中から印象的だった文章を、抜粋します。

“一時間に千五百人の5歳以下の子供が餓死しつつある。”

“毎日二千人のわりで難民が出る。”

“飢餓は自然発生ではないから、それは少くとも、半分はつくられたものだから、飢餓を呼ぶ天災すらも。”

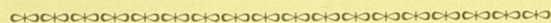
“分裂しあおうと憎しみあおうと、お互い全くちがう生き方をしようと、すべての人間の太古このかたの住居、つまり地球はたったひとつ

それでもひとつ地球はひとつ、

それでもひとつ地球はひとつ

犬養道子さんに興味をもたれた方の為に、当館に所蔵している著書を数点、載せました。

- セーヌ左岸で (中央公論社) 293.5 159
- 旧約聖書物語 (新潮社) 193.1 159
- 新約聖書物語 (新潮社) 193.5 159
- 私のヨーロッパ (新潮社) 302.3 159
- フリブール日記 (中央公論社) 304 159



新着図書(選)－工学

- 水文学 金丸昭治著 朝倉書店
 漂砂と海岸侵食 榎木享著 森北出版
 土木応用数学 北田俊行著 コロナ社
 構造力学 青木徹彦著 コロナ社
 治山・砂防工学 駒村富士弥著 森北出版
 物語日本の土木史 一大地を築いた男たちー 長尾義三著 鹿島出版会
 新体系土木工学 土木学会編 技報堂出版
 15. 土質調査法 (阪口理著)
 26. 水文学 (神田徹著)
 土木材料学 三浦尚著 コロナ社
 道路工学 秋山政敬著 理工図書
 水理学序説 粟津清蔵著 理工図書
 土砂水理学 1 河村三郎著 森北出版
 水理学 松梨順三郎著 朝倉書店
 砂防工学 野口陽一〔ほか〕著 朝倉書店
 上下水道工学 茂庭竹生著 コロナ社
 まちづくりと歩行空間 豊かな都市空間の創造をめざして 今野博著 鹿島出版会
 街のイメージ構造 志水英樹著 技報堂出版
 朝倉建築工学講座 朝倉書店
 1. 構造力学 1 (日置興一郎著)
 2. 構造力学 2 (日置興一郎著)
 新建築学大系 新建築学大系編集委員会編 彰国社
 31. 病院の設計 (伊藤誠〔ほか〕著)
 総覧日本の建築 3 日本建築学会編 新建築社
 フランク・ロイド・ライト全集 2, 3 F, L. ライト著 二川幸夫企画
 数寄屋建築集成 小学館
 北海道の開拓と建築 上, 下 北海道建築士会編
 建築物の構造解析シリーズ 1～4 谷資信編著 技報堂
 1. 構造解析の基礎
 2. 板構造の解析
 3. 骨組構造の解析
 4. 構造の動的解析
 建築構造力学図説・演習 1, 2 中村恒善編著 丸善
 建築構造力学演習 齋藤謙次著 理工図書
 構造学再入門 1 ーデザイナーも構造に強くなるうー 海野哲夫著 彰国社
 鋼構造学 伊藤學著 コロナ社
 現代制御工学 動的システムの解析と制御 嘉納秀明著 日刊工業新聞社
 最新発電工学 坂本龍雄著 コロナ社
 ライティングデザイン事典 ー照明の計画と設計手法ー 島崎信監修 産業調査会
 メカトロニクス・シリーズ 日本機械学会編 技報堂出版
 1. 入門編 メカトロニクス入門
 2. 基礎編 1 マイクロコンピュータの基礎と応用
 3. 基礎編 2 センサと知能ロボット
 4. 基礎編 3 産業用ロボットとその応用
 5. 応用編 1 産業機械・民生機器工業におけるメカトロニクス
 6. 応用編 2 半導体・コンピュータ周辺機器工業におけるメカトロニクス
 7. 応用編 3 鉄鋼・自動車・重機械工業におけるメカトロニクス
 デジタル電子回路 ー集積回路時代のー 藤井信生著
 電子回路 桜庭一郎〔ほか〕著 森北出版
 アプリケーション百科 1987 日本電気株式会社監修 同編者
 コンピュータ大百科 A. Ralston 編 棟上昭男監訳 朝倉書店
 光コンピュータ 稲場文男編 オーム社
 コンピュータ・アーキテクチャ ー頭脳建築学ー 坂村健著 共立出版
 ソフトウェア講座 井上謙蔵〔ほか〕編 明晃堂
 14. タイムシェアリングシステム (中島正志編)
 粉体工学 基礎編, 応用編 川北公夫〔ほか〕著 槇書店
 粉体工学実験マニュアル 三輪茂雄著 日刊工業新聞社
 粉体工学通論 三輪茂雄著 日刊工業新聞社
 高度情報社会要覧 通産規格協会編 (同編者)

図書館と自由 日本図書館協会図書館の自由に関する調査委員会編 日本図書館協会

8. 情報公開制度と図書館の自由

論集・図書館学研究の歩み 日本図書館学会研究委員会編 日外アソシエーツ

7. 図書館目録の現状と将来

図書館学シリーズ 中村初雄監修 樹村房

3. 参考業務及び演習 (森睦彦著)

新渡戸稲造全集 別巻 新渡戸稲造全集編集委員会編 教文館

人間の原型と現代の文化 A. ゲーレン著 池井望訳 法政大学出版局

風土 一人間的考察 和辻哲郎著 岩波書店
心理学要論 麦島文夫〔ほか〕著 有斐閣

教養の心理学 村田孝次著 培風館

認知科学選書 1-4, 7-12 東大出版会

エリアーデ日記 上, 下 M. エリアーデ著 石井忠厚訳 未来社

般若心経講話 大森曹玄著 柏樹社

歴史序説 1-3 イブン=ハルドゥーン 森本公誠訳 岩波書店

日本の社会史 岩波書店

7. 社会観と世界像 (吉田孝〔ほか〕著)

女王卑彌呼と躬臣のびと 徐堯輝著 そしえて空白の四世紀とヤマト王権 一邪馬台国以後一 西嶋定生〔ほか〕著 角川書店

新札幌市史 6 史料編 1 札幌市教育委員会編 北海道新聞社

昭和史 一決定版一 1-18, 別巻 1, 2 毎日新聞社

ラテン・アメリカを知る事典 平凡社

東南アジアを知る事典 平凡社

中国辺境歴史の旅 6-8 陳舜臣編 白水社

日本アルマナック 一DATE&MAPS ビジネス情報大事典一 教育社

社会学の基礎知識 塩原勉〔ほか〕編 有斐閣

日本の社会学 一リーヴィングスー 東京大学出版会

4. 現代家族 (望月高〔ほか〕編)

20. マス・コミュニケーション (竹内郁郎編)

異文化コミュニケーション 石井敏〔ほか〕著 有斐閣

現代日本教育制度史料 19, 21, 22, 25, 26 現代日本教育制度史料編集委員会編

東京大学百年史 部局史 3, 4 東京大学百年史編集委員会編

日本民俗文化体系 網野善彦〔ほか〕編 小学館

10. 家と女性 一暮らしの文化史一 (坪井洋文〔ほか〕著)

日本の食生活全集 18, 24, 34, 43 農山漁村文化協会

民族の世界史 10, 12, 15 岡正雄〔ほか〕監修 山川出版社

数学史 1700-1900 1-3 J. デュドネ編 上野健爾〔ほか〕訳 岩波書店

基礎物理学選書 金原寿朗編 裳華房

1. 質点の力学 (原島鮮著)

地球史入門 小嶋稔著 岩波書店

NHK地球大紀行 3 NHK取材班著 日本放送出版協会

日本の天然記念物 1-6 講談社

生体機能の見かた 一人間工学への応用一 橋本邦衛著 日本出版サービス

ボディウォッチング 一続マンウォッチング一

D. モリス著 藤田統訳 小学館

ニューヨーク・レストラン狂時代 加藤和彦 安井かずみ著 渡辺音楽出版

土門拳全集 1-13 土門拳著 小学館

ロマネスクのステンドグラス L. グロデッキ著 黒江光彦訳 岩波書店

世界言語概説 上, 下 市河三喜編 研究社

ハンガルの初歩の初歩 一オール・イラスト一 金容権著 南雲堂

ハンガルのやさしい決まり文句 金容権著 南雲堂

日中辞典 北京・対外経済貿易大学〔ほか〕編 小学館

〈例解〉現代英文法事典 安井稔編 大修館書店

新葡日辞典 友田金三編 丸善

サラダ記念日 俵万智著 河出書房新社

私の図書館史研究散歩（第8回）

或る家塾蔵書の悲劇

和泉田 正 宏

天保8年（1837）2月19日の朝8時、大阪・天満の一角に火の手があがり、砲声がとどろいた。

陽明学者・大塩平八郎のもとに門弟を中心に勢ぞろいした100人あまりが、屋敷に火をかけて繰りだした。「救民」と大書した旗印を押し立て、血祭りに向かいにある元同僚の朝岡助之丞宅に大筒を一発打ち込み、氣勢をあげた。まもなく急を聞いて駆けつけた町民や近隣の農民が加わり、300人をこえる集団となった。

かれらは富商豪商の屋敷や店に火矢を放ち、砲礮玉を投げ散らし、大砲を打ち込んでいった。今橋筋の鴻池屋庄兵衛家では金4万両が掠奪された。この「大塩の乱」は17日夜、門人の1人が密訴して事前に露顕したため、わずか半日で鎮圧されたが、商都・大阪はもとより、幕府や諸藩に大きな動揺をあたえ、その波紋は全国におよんだ。

大阪東町奉行所の与力・大塩平八郎（1793—1873）は良吏であった。それも行政官として職務を明快適切に処理するだけでなく、社会にたいする正義感に燃えていた。かれの3大功績はよく知られている。天保元年（1830）、与力の世職を養子格之助に継がせて隠居したかれは、弟子の養成と著述に専念していた。

しかし、区作による大飢饉になんら救済策を講じないばかりか、江戸への廻米を命じた幕府の無策に痛憤した大塩は、天保7年9月から蜂起の準備にとりかかった。12月には檄文を木版刷りし、翌8年2月6日から蔵書を売却した資金（約620両）で貧民1万軒に金1朱（当時の相場で、白米約2升の代価）ずつ施行したのである。施行札は美濃判三ツ切で、河内屋喜兵衛ら4人の書籍商の連名で木版印刷された。

近年打続米穀高値に付、困窮の人多く有之由にて、当時御隠退大塩平八郎先生御一分を以、御所持の書籍類不残御売払被成、其代金を以、困窮の家一軒前に付金一朱つつ、無急度都合家数

一万軒へ御施行有之候間、此書付御持参にて左の名前の所へ早々御申請に御越可被成候（幸田成友『大塩平八郎』昭和17年）

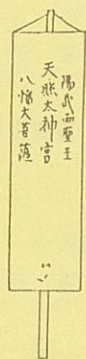
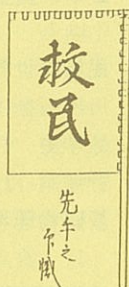
施行場所は安堂寺町の本屋会所で、2月7日から3日間にわたって行なわれた。この施行札は門弟らが市中をはじめ近郊54ヶ町村に配布したが、かれらはそれを渡すとき、「天満に火事が起ったのを聞けば、必ず駆付けよ」と命じたという。

大塩が売り払った蔵書は約5万巻とみられるが目録が作られていないためその全容を知ることはできない。門人や縁ある商人に納めさせたり、また「学生が失錯する度に、科料の代りに父兄に買って納めさせた書籍が玄関から講堂、書齋にかけて二三段に積んだ本箱のなかにあった」（森鷗外『大塩平八郎』大正3年）といわれる。

大塩は家塾・洗心洞で門弟を厳しく教授するだけでなく、近隣の農民・豪農と積極的に接触して独自の陽明学を確立した。当時は「天満風の我儘学問」と評されたこともあるが、学問と思想を実践に移し、家塾の生命・財産である全蔵書を貧民を救うために処分した行動は、わが国図書館史上きわめて特異の現象と位置づけることができる。

昭和62年10月12日夕刻、私は15年ぶりに、懐かしい石碑・洗心洞跡の前に立ち、「火の海と化した騒乱の天満」に想いを馳せたのである。

（いずみだ・まさひろ 本学事務部長）



『塩平勢衰記』（全5冊・写本 本学「北瀧文庫」所蔵）から

開館時間	
本館	工学部分室
9:30~20:00 (月~金)	9:30~17:00 (月~金)
9:30~18:00 (土)	9:30~13:00 (土)
日曜祝日、創立記念日は休館いたします。	

北海学園大学 図書館だより
附属図書館報 Vol. 9 No. 4 (通巻104号)

本館 〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
工学部分室 〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
(011)841-1161 本館内線 270~275・279
工学部内線 813・814